

「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所

〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757

電話連絡先 0282-22-7079(増田)

Eメール oohirasamroku9jo@yahoo.co.jp



226号
2026年7月24日発行

平和な世界を、核兵器のない世界を みんなで築こうとパレードでアピール！

NO WAR！ 憲法変えるな！

7. 10県民集会&パレード



7月10日午後6時から栃木県総合文化センター第一会議室で集会をその後パレードが行われました。

集会では、立憲野党の立憲民主党・共産党・社民党・新社会党・緑の党から連帯の挨拶があり、その後「戦争の道に断固反対し、憲法改悪に反対する集会決議」が採択されました。その後総合文化センターから宮の橋まで、パレードが行われました。思い思いの旗やプラカードを掲げ電飾を施したものやペンライトを掲げるなど、夜の街にふさわしい形で、「戦争反対！」「平和を守れ！」などの声をあげながらアピールしました、

No WAR なくそう核兵器 守ろう憲法9条

栃木市国民平和大行進

7月15日、栃木市で国民平和大行進がありました。当日は、15時30分から市への交渉もありました。17時15分に交流センターに集まって、各会の旗やプラカード、うちわなどを持って行進しました。交流センターから、市役所の横を通り、大通りに出て、銀座通りから交流センターに戻るルートで行進しました。

核兵器のない世界を願って、全国を回って行われている行進です。



「憲法9条改悪に反対する請願書名」へのご協力ありがとうございます。

お陰様で現在125筆集まりました。中央に送らせていただきました。

高市政権は、9条改悪を狙っていろいろな動きを仕掛けています。平和を守るため、9条を守ることが大切です。これからもご協力お願いいたします。

「生きたいと願った証」

豊見城市立豊崎中学校 2 年 亀谷琉奈

沖縄の日に朗読された詩です。すでに眼に触れていると思いますが、再度じっくり読んでみてください。



あの日の沖縄には
青い海も
優しい風もなかった
空は黒く
地面は揺れ
人々の叫び声が絶えなかった
爆撃の音が
心まで壊していく

まだ若かった曾祖母は
小さな体で必死に走った
血だらけの道を
倒れた人たちの横を
もう動かない人を見ながら
涙を流す暇もなく
ただ生きるために
愛する夫の命を案じながら
「お願い 生きていて」
その思いだけを胸に
足がもつれても
呼吸が苦しくても
転びそうになっても
前へ前へと走った
しかし
その願いは
もう二度と届かなかった

その時のことを話す曾祖母の
声は
今でもとても優しい
でも 私は知っている
その優しい声の奥に
今も消えない悲しみがあるこ
とを
細い足
しわしわの手
小さな背中
長い年月を生きてきたその姿
を見るたび
私は戦争の重さを感じる

そして
曾祖母の右足には
今も傷が残っている
それは
戦時中 自分で引っ掻いた傷
灰色の空の下
爆撃の音が鳴り響く
恐怖と不安でいっぱいになり
右手に握った石で
自分の右足を何度も何度も引
っ掻く
気づけば手も足も血だらけだ
った

私が真実を知った時
胸が締めつけられた
どれほど怖かっただろう
どれほど苦しかっただろう

生きたい
死にたくない
その思いだけで
曾祖母は必死に生き延びた

戦争は人を傷つける
体だけじゃない
心まで壊してしまう
家族と笑う時間
友達と過ごす日々
「また明日ね」と言える幸せ
そんな当たり前を
全て奪ってしまう
でもそれは
当たり前なんじゃない
血と涙の中を生き抜いた人た
ちが
命を繋いでくれたから
今の私たちはいる
もし曾祖母が
あの日 走っていなかったら

もし
あの日 命を落としていたら
私はここにいなかった

曾祖母の右足の傷は
ただの傷じゃない
「生きたい」と強く願った証
「戦争は二度としてはいけない」
という叫び
私はその想いを
これから先も伝えていく
もう誰にも
血だらけの道を
走ってほしくないから
もう誰にも
愛する人の命が奪われること
に
怯えてほしくないから
もう二度と
沖縄の空を戦争で
染めてはいけないから

平和は当たり前じゃない
たくさんの人の涙と苦しみと
「生きたい」という願いの上に
ある
だから私は忘れない
沖縄戦で苦しんだ人たちを
愛する人を守ろうとした想いを
泣きながら生き抜いた人たち
を
そして
曾祖母の右足の傷を
「生きたい」と願った証の傷を
平和な未来へと繋いでいくた
めに